

SSC

埼玉県障害者社会参加 推進

センターだより

平成 29 年 3 月 30 日 112 号

編集
埼玉県障害者社会参加推進センター
〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1
県障害者交流センター内
TEL 048-825-0707
FAX 048-825-3070
メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
NPO法人埼玉障害者センター
さいたま市浦和区大原 3-10-1
一部 100 円 (会費に含まれます)
発行日 10 日・20 日・30 日

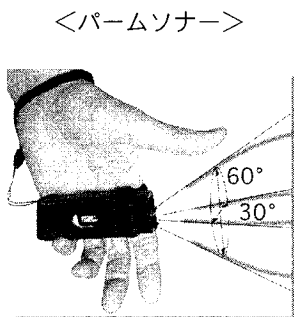
盲人に心強い 振動や 音声による識別用具

NPO法人埼玉県盲人福祉協会

会長 茂木 幹央

超音波歩行用具について

盲人の歩行方法には、白杖・盲導犬・ガイドヘルパーによるものとの三つがあるが、最近では超音波歩行用具を使用している歩行方法が開発されています。



＜パームソナー＞
長さ 77mm・幅 31mm
厚さ 20mm

超音波歩行用具は、盲人の前方や左右などに障害物があるかないかを教えてくれます。障害物がある場合は用具が振動するし、障害物がない場合は用具は振動しません。その特性を盲人歩行に応用するのです。例え

ば、左側に建物がある場合は、用具は振動を続けます。その建物の前を通り過ぎて、左へ入る道がある場合は、左側に障害物がなくなるので用具の振動は止まるといふ訳です。



超音波歩行用具使用の様子

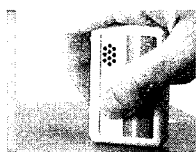
超音波歩行用具は、4m離れた所までの障害物を感知します。超音波歩行用具は、杖を持たない方の手に持って使用します。電池は、リチウム電池CR2032を1個使用。30時間使用可。100円ショップで購入することが出来ます。

道路上の状態は杖で確認し、前後左右上空などの障害物の有無は超音波歩行用具で確認しま

す。超音波歩行用具を使用する場合は、カバンは肩に掛ける物を使用します。

音色彩判別用具について

盲人は、自分の衣服の色を判別することが出来ないので大変不便です。例えば、葬儀に参加する際は黒い靴下を必要とするが、手に持っている靴下が黒かどうかは人に見てもらわないとわかりません。



＜にじいろリーダー＞

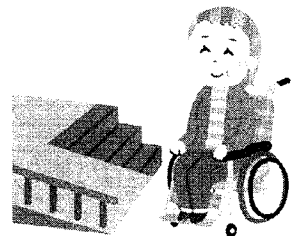
ところが、音色彩判別用具があれば、簡単に自分で黒の靴下を見つけることが出来ます。

タンスの引き出しの中から三足の靴下を取り出して用具をあててみたら、一足は「濃いグレー」、一足は「ベージュ」、一足は「黒」と教えてくれました。その用具は、約40種類の色を識別してくれます。

障害を理由とする差別の解消に向けた

地域フォーラム

NPO法人埼玉県障害者協議会代表理事 田中 一



内閣府・埼玉県主催の「障害を理由とする差別の解消に向けた地域フォーラム」が昨年11月16日午後埼玉県民健康センターで開催されました。このフォーラムは全国15か所で開催され、そのうちの1か所として、埼玉県で開催されたものです。

参加者は行政・福祉関係団体・障害当事者を中心に、約200名の参加がありました。以下にその概要を報告します。

1 円滑な施行を目指して

障害者差別解消法について、地方公共団体と連携し、学識経験者、障害当事者、事業者等を通じて、地域の障害のある人によるパネルディスカッション等や関係者の意見を広く聴取し、障害者差別解消法の円滑な施行を目指すとともに、各地域における取組の促進と気運の醸成を図ることを目的として開催されました。

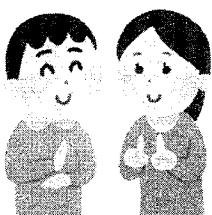
2 プログラム

主催者を代表して、和田内閣府大臣官房共生社会政策担当審議官、知久埼玉県福祉部副部长から、国の障害者政策、県の取り組み状況などについてあいさつがありました。

●基調講演

「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律について」
金 政玉(きむ じょんおく)氏(明石市福祉部総務課障害者施策担当課長・障害者差別解消支援地域協議会の在り方検討会構成員)から講演がありました。氏は、「明石市障害者に対する配慮を促進し誰もが安心して暮ら

せる共生のまちづくり条例」にも触れながら、法の制定に関する経緯、障害者の権利に関する条約の概要の説明の後、法の考え方として、障害者に対して、正当な理由なく、障害を理由として、サービスや各種機会の提供を拒否する、あるいは場所・時間帯などを制限することなどによる障害者の権利・利益の侵害を禁止。また、合理的配慮では、障害者から社会的障壁の除去を必要としている旨の意思の表明があつた時に行われる必要かつ合理的取組であり、負担が過重でないものについては合理的配慮をしなければならない。例として段差にスロープを作る・筆談・読み上げ、手話などの意思疎通、休憩時間の調整などを事例として挙げていました。



● 埼玉県の障害を理由とする差別解消に関する取り組み状況について

埼玉県福祉部障害福祉推進課 主査千葉氏から報告がありました。

氏は、県が実施した障害者への配慮に関するアンケート結果を紹介しながら、障害者差別解消により地方公共団体に求められている体制等の整備として、県民等への普及啓発、相談窓口の設置、障害者差別解消支援地域協議会の設置について報告がありました。

今後の取り組みとしては、「効果的な啓発普及の方法の検討」「合理的配慮の好事例の事例集作成」などの取り組みを予定しているということです。

● 民間事業者の実践例紹介

埼玉県伊豆潮風館の取り組みについて

甲斐田正則氏（埼玉県伊豆潮

風館指定管理者、株式会社馬淵商事 伊豆潮風館支配人）からハード・ソフト両面からのさまざまな障害に配慮した取り組み事例の報告がありました。普段何気なく利用していましたが、料理の献立、食事への対応、配慮など、障害者の声に耳を傾けてきめ細かな取り組みを実践しているということでした。

● パネルディスカッション

【コーディネーター】

金 政玉氏

【パネリスト】

渋沢 茂氏

（NPO法人長生夷隅地域のくらしを支える中核地域生活支援センター）長生ひなた所長、障害者差別解消支援地域協議会のあり方検討会構成員）

村山勇治氏

（公益社団法人埼玉県手をつなぐ育成会 理事長）

田中 一氏

（NPO法人埼玉県障害者協議

会 代表理事）

金氏の進行により、パネリスト三人から15分程度それぞれの置かれている立場で発言、報告がありました。

渋沢氏からは、「障害者支援の現場から障害者差別を考える」という視点で、差別解消法を活かすために、

(3) おこったことを蓄積すること↓地域協議会

(4) それを社会化すること↓相互理解と啓発。

そのような循環を通して誰もが暮らしやすい社会の構築につながるという報告がありました。

村山氏からは、埼玉県手をつなぐ育成会の活動の紹介、津久井やまゆり事件に対する久保全国手をつなぐ育成会連合会長の見解を紹介して、絶対あつてはならないことと強調されていました。



(1) 一つ一つの事例に向き合うこと↓相談体制を作る。

(2) それを皆で考えること↓連携と協働

田中からは、NPO法人埼玉県障害者協議会とは、県内の38の障害者団体が加盟している組織で、県の委託事業を含め障害者福祉向上のために様々な活動をしていることを報告して、障害者差別解消に向けて、行政、県民、加盟団体と連携を図り取り組んでいくと表明をしました。フォーラムは、午後1時に始まり、午後4時をもってすべての日程が終了しました。

難病障害者のひろば

遠隔医療が受けたい

難病患者が抱える共通の問題とは

中枢性尿崩症(CDI)の会 大木 里美



見守り機能付き服薬支援装置「ふっくん」と私

ふっくんと私

写真の見慣れない装置は、「見守り機能付き服薬支援装置ふっくん」です。私の笑顔が全てを物語っているように、ふっくんの見守りのおかげで安心して療養が出来るようになり、乱れていた服薬もきちんと管理出来るようになりました。それで

は、なぜふっくんが我が家に来たのか、これまでの経緯をお話いたします。

通院に疲弊する日々

私は、23年前の出産が原因で、ホルモンの難病である「中枢性尿崩症」と「下垂体機能低下症」を発症しました。ところが、私が暮す埼玉県北部地域には専門医はおろか病院（診療科）すら無いので、3年半の誤診の末にようやく診断がついてからも遠方の大病院への通院に疲弊しています。

現在の私の状況は、外見ではわかりませんが、五臓六腑に影響をおよぼす多彩な全身症状（極度の多尿、激しい喉の渇き、強い倦怠感、意識障害など）と共存しながら何とか生きている

感じます。

もちろん、日常生活にも大きな支障はありますが、国の指定難病に認定され、障害者総合支援法の対象に難病が含まれていても（難病患者は障害者でも）、身体障害者福祉法の内部障害には当てはまらず身体障害者手帳を取得出来ない為、利用できる福祉サービスが驚くほど少ないことが現状です。結局、年々体調が悪くなる中、平日は孤立した療養をしているので命に関わる服薬も管理しきれず乱れていました。

遠隔医療の普及を目指して

そこで、難病患者共通の問題（専門医の不足・医療や福祉の地域格差）を解決する為、埼玉県障害難病団体協議会の仲間

と共に、遠く離れた場所にいる医師と患者をテレビ電話などで繋ぎ診察や診断を行う「遠隔医療」の普及を目指し、活動に取り組んでいます。遠隔で支援する「見守り機能付き服薬支援装置 ふっくん」をお借りする機会にも恵まれ、自らの使用体験からその素晴らしさを実感し、ますます遠隔医療への想いが強くなりました。努力しますので、応援して頂けると幸いです。

※遠隔医療をとことん考える会HPにQRコードからアクセスできます



知的障害者のひろば

「がんばるちから」



NPO 法人 あさひ共生会 あさひあくと (就労継続支援B型)

磯部 正之

リサイクルの仕事に挑戦

ぼくは平成16年にあさひあくとに入りました。ガラス班で皿に転写紙をはる仕事をしていました。何年かして先生から「リサイクル作業所に仕事に行きたい人はいますか」と聞かれたので、ぼくは自分でやってみたいと思って手をあげました。リサイクル作業所は川口市の朝日環境センターの中であって、資源物の選別をするところ。リサイクルに行ってみると、朝早起きしてバスに二つ乗って行くのでとてもつかれました。仕事は缶の選別で大変でした。一日立って仕事します、音もすごくて耳栓をしてやります。



作業中の様子

ん練習しました。だんだん休まなくなつて、今はリサイクルで紙とペットボトルの仕事もでき

るようになりました。

毎月お給料をもらうとイオンでクレイゲームをやるのが好きです。いろいろな景品がとれたときはうれしくて親にメールをします。それから大きな買い物もできるようになりました。任天堂の3DSとポケモンのゲームを買って弟とやっています。僕のお給料でくら寿司にも行きました。弟たちはぼくが仕事から帰ると「お兄さん、お疲れさまです」といってくれます。また仕事を頑張る気持ちかわいてきます。

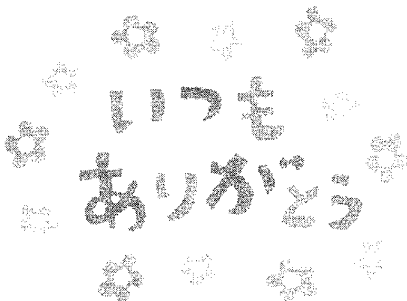
カラオケで「南部蝉しぐれ」

最近「カラオケ一番」というカラオケができるマイクを買いました。前から欲しくてお給料をためてやっと買うことができました。おばあちゃんとやるのが楽しみです。好きな曲は福田こうへいさんの「南部蝉しぐれ」です。おばあちゃんは氷川きよしさんの「ズンドコ節」を

歌って楽しんでます。みんなで那須の温泉に一泊旅行に行ったときもカラオケマイクを持って行って、夜は家族8人でカラオケ大会をやって盛り上がりました。カラオケマイクは高かったけど、家族みんなで遊べるから買って良かったと思います。

家族みんな「ありがとう」

リサイクルの仕事は大変でも疲れます。でもたくさんお給料がもらえるように休まずに頑張つて働きます。家族みんな応援してくれるので本当に感謝しています。お父さんお母さん、いつもありがとうございます。



精神障害者のひろば

ポプリまつり開催

「何でも話せる会」を目指して

埼玉県精神障害者団体連合会 ポプリ事務局次長

稲葉 晃

皆さん、こんにちは。埼玉県精神障害者団体連合会ポプリ（以下ポプリ）で事務局次長をしております、稲葉晃と申します。よろしくお願ひいたします。

ポプリまつりとは？

さて、私達ポプリは「ひとりぼっちをなくそう」を合言葉に精神障害者相互の親睦、情報交換、啓蒙啓発活動などを行っています。今回は、そのポプリの活動の紹介と後で触れる「ポプリまつり」について書きたいと思ひます。

私達は年 2 回埼玉県内各地で「ひとりぼっちをなくそうイン○○」というイベントをしています。○○には地名が入ります。2 月には狭山で行われました。

また毎月第 3 金曜日に川口で

キュポラおしゃべり会を開いています。電話相談も行っています。現在は毎月、火曜日、木曜日、日曜日の午後 1 時から 4 時

30 分までポプリ役員が担当して行っています。その準備の為に

毎月第 1 土曜日に役員会を開いています。そして、そういった活動の周知の為に通信も発行しています。この様々な活動の一端として「ポプリまつり」も開かれ、例年 3 月中旬頃に行っています。県内各地の精神障害者当事者会（以下単会と表記）やポプリ一般会員を対象としています。

なんでも話せるざっくばらんな会を目指しており、お茶菓子等も出します。

過去の例で

言うと、会長

挨拶から始

まりポプリ

活動紹介、

単会紹介と

続き、後半

は、グループ

ワークや親睦

会をします。準

備は例年 12 月頃から各単会等に

お知らせをすることから始まり

ます。当日はキャリーバッグを

持って朝一番にスーパーに買い

出しに行き、お茶菓子として使

います。会場設営は、ポプリの旗

や横断幕を張り出します。そし

て、パンフレット等をセットして

開場です。例年、和気あいあいと

した中で会は進行します。



んなで会って話して懐かしみます。

仲間を募集中です！



ポプリの今後の課題は人材の確保と予算の確保です。人材の面では、イベントの準備をする時のマンパワーになります。どうしても病気を持ったの活動なので無理も生じます。ですので、みんなで助け合う事が大事です。

予算は埼玉県からも付いていますが、単会加盟費や個人会費等払って頂きますと助かります。ポプリまつりを開くのには、そういった意味合いもあります。もし良ければポプリに入ってください。皆さんの力がポプリの原動力になります。ポプリのスローガン「ひとりぼっちをなくそう」に賛同して下さる方をお待ちして、この文章を終わりたいと思います。ありがとうございました。



一芸を披露して下さる会員さんや歌を披露して下さる会員さんもいます。1 年に 1 度み

身体障害者のひろば

全国障害者スポーツ大会に出場して

さいたま市 そめや共同作業所

五十嵐 良

私は、昨年の10月22日〜25日まで岩手県北上市で開催された第16回全国障害者スポーツ大会（障害者の国体）出場しました。出場したきっかけは、40歳を過ぎてメタボぎみになってしまったため改善したいと思い、障害者交流センターのトレーニングジムに通うことにしました。そこで、スタッフに車いす陸上を進められ、養護学校高等部以来25年ぶりに陸上を始めました。初めは楽しく陸上大会に出場していましたが、練習を積み重なると全国大会出場したいという気持ちになってきました。

25年ぶりに叶った 全国大会出場の夢

そして5月に熊谷で行われた県予選会に出場しました。6月に封書が届きました。全国大会出場決定の通知でした。さいた



ま市の選手団として選ばれたのです。まさか、選手として選ばれるとは思わなかったので驚きました。学生時代に目指していた、全国大会出場の夢が25年の時を得て叶いました。とてもうれしかったです。

そして、強化練習を重ね10月22日の開会式の日を迎えまし

た。たくさんの方の歓声の中、競技場内を入場行進しました。改めて自分は国内で一番大きな大会に出場していると感じました。清々しい気持ちで行進することができました。

2 競技で一位を獲得！

競技は、車いすスラローム（ポールを前進、後進で通過、ポールの周りを8の字走行で前進、後進）と50m走です。今まで色んな大会に出場しましたが、今までにない緊張感を感じました。さいたま市選手団の応援で緊張がほぐれ気持ちが楽になりました。結果は2競技とも1位でした。スラロームの競技の時は特にうれしくなっていました。ゴールの瞬間思わずガッツポーズしてしまいました。競技の後表彰式がありました。金メダルが首に掛かったときは感無量な気持ちでいっぱいになりました。監督やコーチの方々や交

流センターのスタッフのご指導のおかげでこのような成果が表れたと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

岩手ということでも10月末とはいえ、少し寒さも感じましたが、現地ボランティアの方の支えや、さいたま市選手団の若いパワーをもらい、元気になってさいたま市へ帰ってきました。日々の生活を忘れ、陸上に没頭した6日間となりました。とても楽しく良い思い出になりました。大会から少し経ち、また全国大会出場に向けて頑張りたいと思っています。



「横浜、横須賀」研修旅行

埼玉県障害難病団体協議会

田村 文子



暖かかった前日とは違って寒

い薄曇りの空模様の中、バスは
順調に走り予定よりやや早めに
横浜中華街へ到着した。早速、美
味しい中華料理の昼食。中華料
理は大昔中国に留学した僧たち
が持ち帰り、古くから日本人が
好んでいたとも言われている。
食事の後は散策とお土産購入。
その後横浜みなと博物館へ向
かった。ボランティアの説明か
ら横浜の原点は幕末、ペリーが
捕鯨を目的に来航した事から発
展をしたなどの説明を受けた。

充実した意見交換

「あゆみ荘」にバスを進め、
到着後すぐ「障害者協議会の活
動課題」や「現在の問題点など」
について約 1 時間話し合いがも
たれた。昨年「津久井やまゆ
り園」や「障害者差別禁止法」

の内容が話題になった。その他、
各団体の報告の中で「障害者や
難病患者に対する電車の優先
座席」や県の福祉バスの利用が
「もっと簡単にできるような
ど」の意見が出された。長い間健

康の悩みをかかえている人たち
の言葉は皆、重い意味を含んで
いる。この交流時間があつてこ
その研修旅行であつたと思う。

翌日、次の見学地横須賀へ
行った。軍港として名高く今回
の見どころでもある。軍艦にも
潜水艦の他、沢山の種類がある
ことを知った。米国の航空母艦
ロナルド・レーガンも寄港して
いた。船中には 6000 人もが
働きスターバックスのお店まで
用意されていることを知った。
饒舌な案内人の下、軍港見学を
楽しんだ。

だが何とも言えない不安に
なった。私たちはこんなに、軍
備をしないと生活できないの
だろうか。一瞬脳裏をかすめた
が、ほんの一瞬で終わり、下船

後「有名なカレー」をお土産に
買いこんだ。古くは軍人の脚気
予防に作られ始めたらしいが、
今では横須賀の名物料理の一つ
となっている。

みんな笑顔で

この 2 日間の交流で多くの
事を体験し、今回の旅行のテー
マである「楽しむ喜び、和むこ
ころ、豊かな気持ち」を実感し
た。参加者全員皆満足し、にこ
やかな好い顔になっていた。私
も「人生バランス良く、豊かな
気持ち忘れずに」などと、考
えているうちにバスは新都心に
着いた。

楽しく充実した時間を設定し
てくれた幹事の皆さんありがと
う。



横須賀で記念写真

◆編集後記◆

この「センターだより」では、
各団体の活動の様子、行事等の
情報が分かり易く書かれていま
す。日々の生活の中で『知って
いればよかった』と思ったこと
はありませんか？

広報誌は皆さんが抱えている
問題や悩みを沢山のひと共有、
共感できる手段の一つです。も
し本誌で興味を持ったなら、交
流センターへ足を運んで様々な
活動に参加してみませんか。ス
ポーツ活動だけでなくお料理や
お花など文化芸術活動もあり多
くの人が集まっています。そこ
で出会った人と交流すること
により、紙面より多くの体験と
情報を得ることが出来ると思い
ます。

4 月の交流センターは桜が大
変綺麗です。まずはお散歩に桜
を見に来てください。お待ちし
ています。

埼玉県身体障害者福祉協会 松本